



ICT人材の確保・育成施策の推進



経済産業部産業革新局

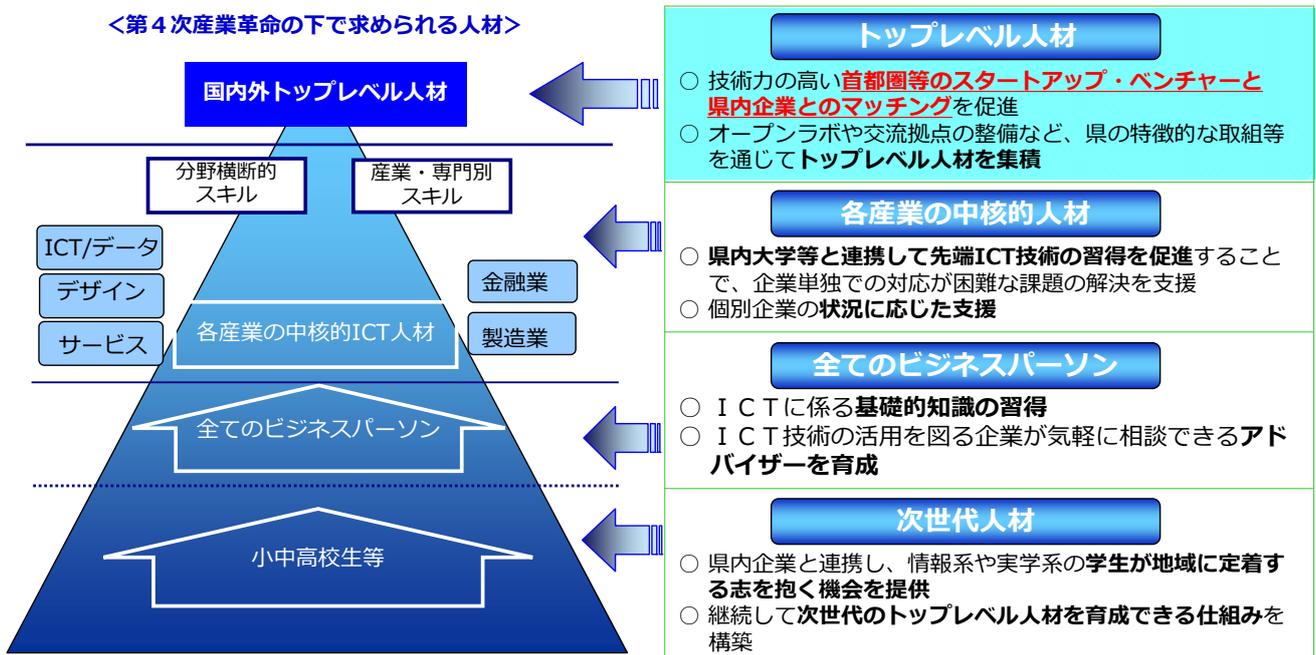


ふじのくにICT人材確保・育成戦略

第4次産業革命の進展に伴う産業構造の変化が加速する中、本県のみならず、我が国の**AI、ICT人材は質・量ともに圧倒的に不足**
 (※ 経済産業省の推計：2030年にはICT人材が全国で約59万人不足)

国が示す「第4次産業革命の下で求められる人材」の階層ごとに考え方を整理し施策を展開

＜第4次産業革命の下で求められる人材＞



TECH BEAT Shizuoka ～静岡で刻まれるイノベーションの鼓動～



〈TECH BEAT Shizuoka 開催概要〉

【開催日】

2019年7月24日（水）、25日（木）
※23日（火）に前夜祭

【会場】

静岡県コンベンションアーツセンター
「グランシップ」

【内容】

- 基調講演
 - ・ 24日午前：東京大学教授・松尾豊 氏
 - ・ 25日午後：スタンフォード大学
Biodesign Program Director
・池野文昭 氏
 - ・ その他企業経営者等による講演
- スタートアップ・ベンチャー等のブース出展
- 出展企業等による自社PRプレゼンテーション
- 県内企業を対象としたAI・ICT入門セミナー
- ビジネスマッチング、商談

TECH BEAT Shizuoka 開催結果

〈TECH BEAT Shizuoka 開催結果〉

○参加状況

- ・スタートアップ・ベンチャー56社
(ブース出展48社)
 - ・商談希望県内企業55社
- 合計 111社**

○入場者数等

区分	7/24	7/25	合計
入場者数	約1,800人	約1,500人	約3,300人
商談件数	170件	158件	328件

※ 商談希望件数706件、残り378件は年内を目処にフォローアップを実施



グランシップ 大ホール会場



〈挨拶〉
中西 勝則 実行委員会会長



〈挨拶〉
川勝 平太 静岡県知事



〈基調講演〉松尾 豊 氏 東京大学教授

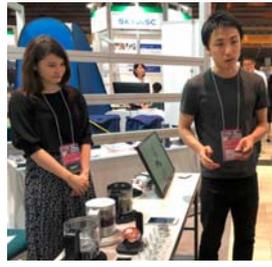
多彩なスタートアップとの協業による新たなビジネス展開へ

WOTA株式会社 (東京都文京区)



- 東京大学発ベンチャー
- 独自の水処理センサー及びアルゴリズムを用いた、次世代の分散型水インフラの開発

株式会社LOAD&ROAD (東京都千代田区)



- IoTティーポットteploの製造・販売、アプリを通じた高品質・多種類の茶葉の販売
- 丸山製茶(株) (掛川市)と共同開発

株式会社PKSHA Technology (東京都文京区)



- 東京大学発ベンチャー
- 独自開発の機械学習・自然言語処理・画像処理等の技術モジュールをライセンス提供

リーウェイズ株式会社 (東京都渋谷区)



- 6,000万件超の不動産ビッグデータとAI分析機能を搭載した不動産評価分析パッケージやカスタマイズサービスの提供

現在、複数の商談が進行中

4

参加企業からの意見・評価 (中間とりまとめ)

首都圏 スタートアップ

- ✓ 県内企業の経営者層が多数来場しており、すぐに次のステップにつながるような商談ができた。
- ✓ 首都圏から近いにも関わらず、これまで静岡県との接点がなかなか持てずにいた。今回をきっかけに販路拡大を進めていきたい。
- ✓ BtoB向けの高単価な商品を扱うスタートアップにとって、大手企業と会える機会はとても貴重である。
- ✓ マッチングだけでなく、部課長クラスがふらっとブースに寄ってくれるのが、こうした地域密着型イベントの良いところだと思う。

県内企業

- ✓ 参加したベンチャー企業は静岡県内にはないレベルのものが多かった。すぐにでも自社の問題解決につながる話をたくさん聞くことができた。
- ✓ 良い試みだと思ふし、来年もぜひ開催してもらいたい。続けることで静岡が変わる可能性がある。大手との連携、中小企業とのマッチング等にも繋がり面白いイベントである。もっと広く広告し、ブランド化を図って、イベントの拡大にも期待したい。
- ✓ 大変刺激的で、良い意味で静岡らしくない新しさを感じた。世界のスピード感を知ることができた。
- ✓ 大人と若者との相乗効果起きるかもしれない。学生にとっては勉強の場となるし、もっと若い人 (高校生や中学生など) にも参加してほしい。
- ✓ 「農業」、「医療・介護」、「食品」等とテクノロジーの融合に関する情報を知りたい。

5

TECH BEAT Shizuoka を契機とした今後の方向性



松尾 豊 (Matsuo Yutaka)
 東京大学大学院 工学系研究科教授
 (一般社団法人 日本ディープラーニング協会 理事長)
 日本を代表するAI研究の第一人者
 <専門分野>
 人工知能(特にディープラーニング)
 ウェブ工学

- ✓ 1階から2階に上がるエレベーターの発明が、米国の高層ビル群の建築ラッシュをもたらした。単なる現在の仕事の代替では限界がある。最新技術が開拓する新領域が広大な市場となる。
- ✓ 「目」の誕生がカンブリア爆発を引き起こしたように、AIの分野におけるDL (Deep Learning) はまさにこれに当たる。
- ✓ 静岡は首都圏に近く、交通利便性が高い。温暖な気候で、自然豊かな環境を持つ。東静岡地区などへの首都圏のスタートアップ企業の集積可能性はある。
- ✓ 東京・大手町には、FinTech関連のベンチャーなどが集積しているが、狭いスペースで十分。しかし、製造業系のロボットの試作等はできない。静岡には、ものづくり企業が集積しており、場所も広くとれるならば、例えばロボット試作の実証スペースなどが用意できれば有効ではないか。



池野 文昭 (Ikeno Fumiaki)
 医師。現在、研究と並行し、スタンフォード大学における医療機器関連の起業家育成講座で教鞭をとる。日本にもシリコンバレー型の医療機器エコシステムを確立すべく、精力的に活動している。

- ✓ イノベーションにおいて最も重要なのはニーズであり、「何のために行うのか」を考える必要がある。自社にアイデアを遂行する技術がなければ、オープンイノベーションにより他社の技術を使う。「現場」と「技術」のマッチングをする場が必要であり、それがTECH BEAT Shizuokaである。
- ✓ メンバーの多様性が高いほど生まれる価値の振れ幅が大きい。均一なチームでは無難なアイデアが生まれるが、世界を変えるイノベーションは多様性の高いメンバーからしか生まれない。
- ✓ 静岡県は、年代や職業の構成比率、物価などもほぼ全国平均であり、新商品の多くがテスト販売されている。新商品の多くが静岡県民に認められたものと考えるとイノベーションの発祥地は静岡県となり得る。

6

「TECH BEAT Shizuoka」から「先端産業創出」へ

先端技術の産業応用に向けた
 実証フィールドの形成
 (自動運転、医療・ヘルスケア、
 エネルギー、農業等)

研究拠点集積

先端産業創出

**TECH BEAT
 Shizuoka**

ものづくり技術
 ×
 AI・ICT先端技術

+

Advanced
 農業技術・データ等
 ×
 AI・ICT先端技術

- ・ 多彩な産業群の技術的隘路の突破
- ・ 新たなビジネス展開
- ・ 社会的課題の解決

↓
**AI・ICT企業の本県企業との協業促進・集積へ
 (受け皿の整備)**

事業成果検証・フィードバック

首都圏スタートアップ企業等

県内企業・農業法人等

大学・研究機関等

7